

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 28 日現在

機関番号：32647

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24531152

研究課題名(和文) 創造の場としてのアートプロジェクトと造形ワークショップに関する国際比較と基盤研究

研究課題名(英文) The art project as the place of the creation and international comparison and base study on art workshops.

研究代表者

押元 信幸(Oshimoto, Nobuyuki)

東京家政大学・家政学部・准教授

研究者番号：40521505

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 4,100,000円

研究成果の概要(和文)：アートプロジェクトや造形ワークショップについて、実践を伴ったプログラム検証等によって、その教育的意義を探る研究を進め、その成果を大学美術教育学会等で発表した。また、今、学校で、社会でどんな美術教育が行われているのかを広く紹介する展覧会「えっ?『授業』の展覧会 図工・美術をあそび直す」を開催した。本研究のまとめとして、報告書『アートプロジェクトとワークショップ』を編纂した。

研究成果の概要(英文)：About an art project and art workshop, We studied to investigate the educational significies by program inspection with the practice and announced the result in university art education societies. In addition, I held exhibition "えっ?『授業』の展覧会 図工・美術をあそび直す" to introduce widely what kind of art education was provided in a school and society As a summary of this study, We gathered up the result in a report in "Art project and Workshop".

研究分野：社会科学

キーワード：アートプロジェクト 造形ワークショップ 創造 美術教育 ものづくり 感性 まちづくり コミュニケーション

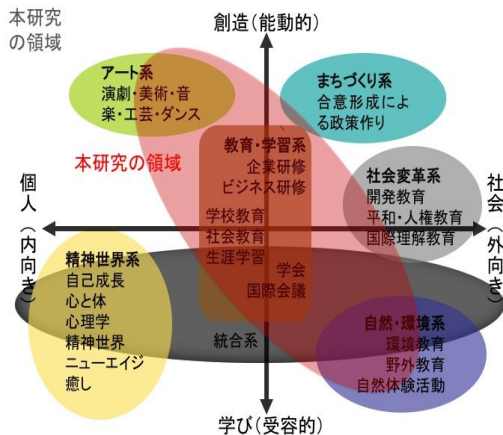
1. 研究開始当初の背景

造形は、ものの見方、考え方、関わり方といった「感性」を学ぶものであり、自身にとっての外的世界と内的世界とのあらたな関係を広げていく創造的な営みである。近年、Bloom の教育目標分類 (Bloom1956) で最も高次の目標として再考されている創造活等は、これからの教育では特に重要な事項として扱われなければならない。

アートプロジェクトや造形ワークショップの数は、近年になり飛躍的に増えつつあり、予想を上回る勢いで社会に浸透している。しかし、それは社会教育として広まりを見せながら、必ずしも教育方法として確立されているとは言いがたい。その理由は教育的実践としての意義を測りづらいことにあり、一般には一過性の活動としてとらえられ持続性のある学びとして認知されていないことにある。

これまでに研究代表者と研究分担者は、ワークショップがいかに子どもに芸術的意味を創出しているかについての考察として、子ども対象ワークショップの考案におけるメカニズムの解明とモデル化に関する基礎研究を実施してきた。平成 21-23 年度「芸術的意味を創出する造形ワークショップに関する日米比較と基礎研究」基盤研究(C) その成果の一部は「Active Learning 造形ワークショップ - 実践例とプログラム開発」(三澤一実・押元信幸, 2011) に収録し、学会発表や講演会等で造形ワークショップについてのアウトリーチ活動を行ってきた。

本研究は、これまで我々の行ってきたアートプロジェクトや造形ワークショップの研究を修正しつつ、継続的にアウトリーチ活動を実施することにより、日本の造形ワークショップが一過性の活動ではない持続性のある「学びと創造の場」として、より多くの人にその教育的意義が認知されるものと考えられる。

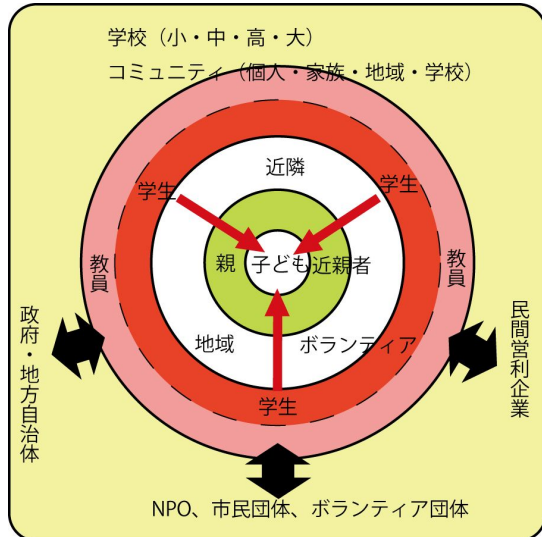


<従来のワークショップの分類と本研究領域>

2. 研究の目的

本研究は、アートプロジェクトや造形ワークショップを造形教育の「新しい学びと創造

の場」として確立するために、その教育的意義を明確にするものである。具体的には造形ワークショップの事例を収集し、考案メカニズムの解明と教育・指導プログラムの検証と開発を行い、自らも実験的な造形ワークショップの実践研究を行う。また国際的な視点から、日本のアートプロジェクトや造形ワークショップを比較・考察する。これらの成果を広く一般にとアウトリーチ活動をする事により、将来の日本の造形教育と美術教師養成のシステムを構想するものである。



<子どもを取り巻く地域連携のイメージ>

3. 研究の方法

計画は、三つのテーマに分けて研究を進める。一つは、**(アートプロジェクトや造形ワークショップのプログラム検証)**であり、現在の造形ワークショップの状況を広く分析調査する量的研究である。二つは、**(アートプロジェクトと造形ワークショップの地域連携についての考察)**これは造形ワークショップの有効性を検証する質的研究である。三つめは、**(アートプロジェクトや造形ワークショップの実践とアウトリーチ活動)**これは大学の授業や造形ワークショップなどによって実践的な検証を行うものである。また広く一般に造形ワークショップの意義を伝えるためのアウトリーチ活動を続けていくことである。最終的には、以上の三つのテーマをもとに造形ワークショップの考案メカニズムの解明や、プログラム開発を行った考察をまとめ公開していく。

三つの研究方法

(1) **アートプロジェクトや造形ワークショップのプログラム検証**

造形ワークショップと医療・福祉の現場との関わりについての実践例の収集と検証

アートプロジェクトと環境・まちづくり等との関わりについての実践例の収集と検証

社会における建設的な内容を伴った造

形ワークショップのプログラム検証とその開発

## (2) アートプロジェクトと造形ワークショップの地域連携についての考察

米国を中心とした海外のアートプロジェクトや造形ワークショップのフィールド調査と文献調査

アートプロジェクトや造形ワークショップの地域連携についての国際比較

## (3) アートプロジェクトや造形ワークショップの実践とアウトリーチ活動

教員養成大学・芸術系大学におけるアートプロジェクトや造形ワークショップの実践教育

美術館、地域社会、学校、病院、などでのアートプロジェクトや造形ワークショップの実践

学会、講演会等でのアートプロジェクトや造形ワークショップの意義についてのアウトリーチ活動

## 4. 研究成果

三つの研究方法に基づいて、それぞれに研究活動を進めた。主な内容と成果については以下の通りである。

### (1) アートプロジェクトや造形ワークショップのプログラム検証

24年度、押元は10月に長野県東御市芸術村公園で行われた『火のアートフェスティバル』で、「鍛冶ワークショップ」を実施した。また、三澤は年間20本のワークショップを展開し、創造の場としてのワークショップに関する基礎データを収集した。さらにスクールアートプロジェクト「ムサビる！」の記録集を監修制作し、ワークショップの取り組みを中心にその成果をまとめ全国500カ所の関係諸機関に配布した。大成は『大地の芸術祭越後妻有アートトリエンナーレ 2012』にて「上鰯池名画館」大成哲雄／竹内美紀子を発表し、それぞれにプログラムを実践することで検証していった。

25年度、三澤が実行委員長と押元、大成が実行委員として企画運営に携わった「え？『授業』の展覧会 図工・美術をまなび直す」（うらわ美術館 9月14日～10月27日）では、今、学校で、社会で何が行われているのかを広く紹介し、これからの造形美術教育のあり方を共に考えていく展覧会を開催した。

26年度、三澤は年間20本のワークショップを展開し、ワークショップに関する基礎データを収集した。それぞれにプログラムを実践することで検証していった。

### (2) アートプロジェクトと造形ワークショップの地域連携についての考察

24年度、押元は、研究協力者の小野寺と、国際的な美術教育プログラムやについて情報収集と米国の造形ワークショップ調査について、今後の方向性を検討した。

25年度、押元は、24年度に引き続き、情

報収集と調査の方向性を検討した。また、北欧の美術教育についても情報を集め、次年度の現地調査についての検討を行った。

26年度、6月20日に小野寺の通訳のもと、アメリカのエルビン レドル（アーティスト）にインタビューをした。その結果、福祉レジーム論の観点から日本の立ち位置を捉え、アートプロジェクトや造形ワークショップに関する造形教育にどのような違いが見られるか国際比較を行うことで、日本のアートプロジェクトや造形ワークショップを造形教育の教育的意義を明確にすることができると思われた。

大成は、大学近隣の公園で2008年から継続的に地域の子ども向けにワークショップを企画し、地域住民や様々な人たちと協働する地域のアートプロジェクトとして定着してきた。また、保育所とアートプロジェクトを行い保育士、園児、学生と映像作品をつくり公開した。幼児教育のアートプロジェクトの可能性を提案できる事例を作ることができた。これまでの活動は報告書「アートプロジェクトとワークショップ」にまとめてある。

### (3) アートプロジェクトや造形ワークショップの実践とアウトリーチ活動

24年度、押元は8月に東京家政大学内で行ったアートプロジェクト『狭山 ART CAMP 2012』を実践し、10月の学会で発表した。三澤は年間20本のワークショップを展開した。中でも、福井大学大学院でのワークショップは日常の授業の省察というテーマで展開し、「創造の場」の位置づけを造形芸術から教育の方法を含めての創造とする試みとなった。大成は聖徳大学の教員養成プログラムと併せ、11月に『常盤平アートプロジェクト2012』にて「デコデコちゃりんこ ～団地探検隊～」、12月に『松戸アートラインプロジェクト』にて「101人ライトドロ잉」を実践した。

25年度、押元は8月に東京家政大学内で行ったアートプロジェクト『板橋 ART CAMP 2013』で、「鍛冶ワークショップ」を実施し、同大学リサーチウィークにて、実践報告をポスター発表した。大成は12月に『暮らしの芸術都市』にて「つながる洋服プロジェクト」（ダイエー松戸西口店）を実践した。

26年度、これまでの研究成果について、積極的に学会発表や論文発表を進めた。論文発表によるアウトリーチ活動は、押元が大学美術教育学会の学会誌（査読有り）に、執筆した。また、「全国大学造形美術教育教員養成協議会」の学会誌には、大成、押元、三澤が六つの事例を報告した。他にも押元が東京家政大学生生活科学研究所研究報告に実践報告を発表し、三澤が造形ジャーナルに論文を執筆した。学会発表によるアウトリーチ活動は、三澤が鳥取県博物館のスペシャルアートレクチャー、武蔵野美術大学の武蔵野美術大学研究集会にて発表した。また、大学美術教育

学会の福井大会のポスター発表にて、大成、押元が実践報告を発表した。

本研究のまとめとして、「アートプロジェクトとワークショップ」(JSPS 科研費 24531152)を編纂した。本報告書は四冊の構成になっており、三人の分担者がそれぞれ一冊を担当した。1.「ドリーム列車絆プロジェクト」を三澤が担当し、プロジェクトがいくつかのワークショップのつながりで進展していくという形式をとり、創造の場としてのワークショップの検証が行われた。2.「アートパークの記録 2008～2014/聖徳大学大成ゼミの記録 2010～2014」を大成が担当し、これまでの実践の活動をまとめて検証した。3.「アートプロジェクトを通しての工芸ワークショップ」を押元が担当し、工芸ワークショップの可能性を示すために、アートプロジェクトとして行われた鍛冶体験について検証した。残りの一冊には 2013 年 9 月に開催された展覧会を収録し、4.「えっ、『授業』の展覧会 図工・美術をまなび直す」PDF DETA を押元が編集した。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 8 件)

押元信幸、「アートキャンプ」における鍛冶プログラムの考察 -自然と自己, 他者を結ぶメディアとしての可能性-, 美術教育学研究、査読有、2015、95-102

北沢昌代、大成哲雄、全美協 H26 年度造形教育フォーラム「芸術士と語ろう～子どもたちの創造性を育む文化芸術の役割について～」 「公開ワークショップ」と「シンポジウム」報告とまとめ、大学造形美術教育研究、査読無し、第 13 号、2015、2-9

押元信幸、大学内アートプロジェクトにおける工芸ワークショップの実践

東京家政大学「アートキャンプ」における鍛冶プログラムの実践報告、大学造形美術教育研究、査読無し、第 13 号、2015、30-31

三澤一実、「インターカレッジ版旅するムサビ」、大学造形美術教育研究、査読無し、第 13 号、2015、26-27

三澤一実、「黒板ジャックの取り組み」、大学造形美術教育研究、査読無し、第 13 号、2015、28-29

押元信幸、他7名、手の感覚を養う工芸ワークショップに関する教育的意味：アートキャンプの実践報告、東京家政大学生生活科学研究報告、査読無し、第37集、2014、115-121

三澤一実、感性と批評、造形ジャーナル、査読無し、Vol.58-4 no.420、2014、23

押元信幸、他5名、手の感覚を養う工芸ワークショップに関する教育的意味

狭山アートキャンプ 2012 の実践から、東京家政大学生生活科学研究報告、査読無し、第 36 集、2013、49-54

〔学会発表〕(計 8 件)

三澤一実、これからの社会と美術教育、スペシャルアートレクチャー招待講演、2015/1/31、鳥取県博物館

三澤一実、学外連携による鑑賞活動 7 年の取り組みと学生の育ちについて～旅するムサビと造形批評、武蔵野美術大学研究集会 2014/11/3 武蔵野美術大学

大成哲雄、大学生と保育所が行うアートプロジェクトの研究-「つながる洋服プロジェクト」の実施から-、第 53 回大学美術教育学会福井大会、2014/10/5、福井大学

押元信幸、鍛鉄の体験を通して-狭山アート・キャンプにおける鍛冶プログラムの実施報告-、第 53 回大学美術教育学会福井大会、2014/10/5、福井大学

三澤一実、造形批評力の獲得を目指した校種間交流鑑賞プログラムの開発と普及システム作り、第 52 回大学美術教育学会京都大会、2013/10/12、京都教育大学

大成哲雄、地域と取り組むアート～ライトドロ잉の実践から～、第 52 回大学美術教育学会京都大会、2013/10/12、京都教育大学

押元信幸、手嶋尚人、アート・プロジェクトによる学び、第 51 回大学美術教育学会大分大会、2012/10/21、大分大学

三澤一実、美術教育の現状とこれから、秋田県高等学校教育研究会芸術部会美術部会、2012/9/29、秋田県にぎわい交流館 AU

〔図書〕(計 7 件)

井上俊哉(押元信幸、他)、スタートアップ エクササイズ、東京家政大学 東京家政大学短期大学部、2016、110-111

三澤一実、押元信幸、大成哲雄、アートプロジェクトとワークショップ、東京家政大学金工・ジュエリー研究室、2015、245

三澤一実、押元信幸、大成哲雄、アートプロジェクトとワークショップ、東京家政大学金工・ジュエリー研究室、2015、245

岡崎友典・梅澤実(押元信幸、他)、乳幼児の保育・教育、放送大学教育振興会、2015、70～78 85～92

三澤一実(押元信幸、大成哲雄、他)、美術教育の題材開発、武蔵野美術大学出版局、2014、431

三澤一実 監修、ムサビる!、ムサビる編集委員会、2013、40

押元信幸、他、狭山 ART CAMP 2012 -アートプロジェクトによる学び-、アートキャンプ編集委員会、2013、22

大成哲雄、他、実践事例にみる ひと・まちづくり グローカル・コミュニティの時代、ミネルヴァ書房、2013、121～123 126～127 202～204

#### 6. 研究組織

(1) 研究代表者

押元 信幸 ( OSHIMOTO NOBUYUKI )  
東京家政大学・家政学部・准教授  
研究者番号：40521505

(2)研究分担者

三澤 一実 ( MISAWA KAZUMI )  
武蔵野美術大学・造形学部・教授  
研究者番号：10348196

大成 哲雄 ( OONARI TETUO )  
聖徳大学・児童学部・准教授  
研究者番号：80406743

(3)研究協力者

小野寺 和子 ( ONODERA MASAKO )  
ウィスコンシン大学・Assistant Professor